新聞を活用した教育

帯広市立南町中学校　　鎌田　晃子

１、はじめに

本校は、14学級、全校生徒５１１名の中規模校である。平成17年度のＮＩＥ実践校に指定され、各教科の授業や総合学習、学活などで新聞を活用した実践を行った。

近年、子どもたちの活字離れが指摘され、新聞を目にする機会も減ってきているという。そこで、少しでも活字に触れてもらい、新聞を身近に感じてもらおうと、図書室に新聞コーナーを設置し、授業等での新聞活用を呼びかけることにした。教師側からの働きかけにより、少しでも改善できる点があれば、という願いのもと今回の実践に至った。

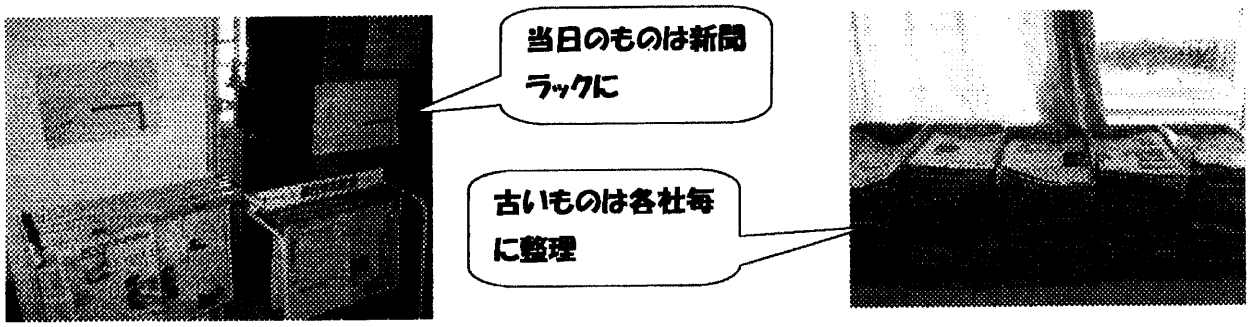
本校では、９月から12月までの４ヶ月間、道新、朝日、勝毎、産経、日経、毎日、読売、合計７紙の提供を受けた。

２、実践内容

（１）新聞コーナー

３階図書室に、新聞を自由に閲覧できる“新聞コーナー”を設置した。昼休みに、図書当番の生徒が職員室より図書室に新聞を運び、ラックにセットする。古くなったものは、各社に分けて保管している。新聞の管理については、全て図書委員に任せており、図書室開放時間（昼休み）には、多くの生徒が目を通していた。

新聞を置いてからの生徒の反応は、興味を持っていろいろな新聞を手に取り、読み比べる生徒がいる一方で、「難しい」というイメージから、全く手を出せない生徒もいた。家では新聞を読まなくても、図書室にきて新聞を目にする機会ができたということ、また様々な種類の新聞を目にすることができる、過去の新聞から調べ物ができるなどのメリットがある一方、「難しい」「堅い」という固定概念から、新聞があってもなかなか手にできない生徒への対応が課題である。



（２）学活での活用

朝の会では、２学級が新聞を活用した実践を始めた。毎日、日直が前日の夕刊か当日の朝刊から興味のあるニュースを切り抜き、「今日のニュース」を発表している。さらに、ニュースに対する簡単な自分の意見も付け加えるよう指導している。

発表されるニュースは、大きな事件や話題のものが中心だが、スポーツの話題、十勝の話題なども身近なだけに人気があり、毎日、様々なニュースをクラス全員で共有できている。以前は、全く新聞を読まなかった生徒も、日直の日や前日には新聞に目を通すなど、少しずつではあるが効果が出てきている。

しかし、まだまだ新聞を読むことが習慣とまではなっていないのが現状である。また、難しい話題は避けて通るため、芸能やスポーツ、地元の話題などに偏りがちなので今後の課題として、改善策を考えていきたい。

（3）国語科での取り組み

国語科では、生徒の文字離れを防ぐため、特に、読書指導や新聞を読む指導に力を入れている。今回、4ヶ月間の新聞提供を受け、様々な分野の新聞資料が豊富にあったこともあり、授業の中で新聞を活用した授業を行うことができた。

今回、新聞を活用した授業を行ったのは、「男女差別」「ジェンダーフリー」を取り扱う単元であった。皇位継承問題がちょうど新聞で報道された時期でもあったため、生徒は興味を持って授業に取り組むことができた。

【1】授業

○ 単元　　1年「何か変じゃない？」

○ 単元の目標

・新聞記事を読み、「男女差別」、「男女間の役割分担は必要か」について考え、自分なりの考えを持つ。

・新聞資料を読み、「男女問題」について必要な情報を選びレポートを作る。

・社会の問題に目を向けながら“自分らしく生きること“について考える。

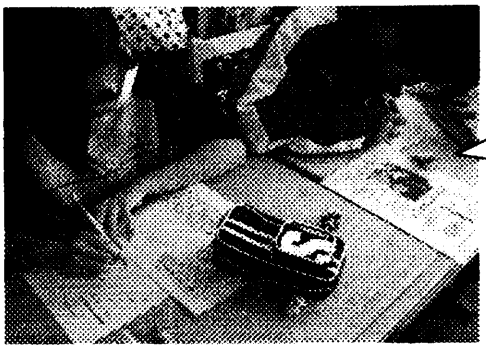
○展開・・・6時間

時数	生徒の活動	教師の活動	留意点
導入	・男らしい・・・強い、スポーツができる、ワイルド、短髪、筋肉 ・女らしい・・・優しい、おしとやか、長い髪、家事ができる、 ・必要、必要じゃない、ある程度は必要 ⟺	・「男らしい」「女らしい」とはどんな人か発表させる ・男らしくしたり、女らしくいたりすることは必要なの？	・イメージの中の「男」「女」について聞き、無意識のうちに「男らしい」「女らしい」ということを意識していることを認識させる。
	新聞記事を読み、男女問題について自分なりの考えを持つ。		
1／6	・新聞資料を読み、重要なところには線を引く。【資料1】	・ワークシート、新聞資料配布 ・性差による問題が書かれた新聞資料を読んでいく。（女性天皇・ジェンダーフリー・性同一性障害）大事なところには線を引かせる。	・3つの新聞記事を使った意図→日本では昔から男性社会であり、女性がなかなか自由になれないという教師の認識から。
	・補足説明で理解を深める。	・補足説明→天皇の家計図、ジェンダーフリーの説明 ⟺	・ジェンダーフリーは女性の生き方を広げる活動、性同一性障害は

	・自分の興味のある記事を一つ選ぶ 自分の考えをワークシートに書いていく【資料2】 【写真1】 ・ワークシートを提出する。	・ワークシートに、自分が興味を持った記事について、思ったことを書かせる。「男らしさ」「女らしさ」は必要かということを頭において書かせる。 ・ワークシートを集める。	障害として認め、差別しないというところまで読み取れれば良い。
	評価：・新聞記事から、社会的な問題に目を向け、性差によって苦しんでいる人や活躍できない人達がいることを理解できたか。 ・自分なりの考えを持って意見を書けたか。		
展 開 2,3,4 ／ 6	・新聞記事を読み、男女問題の記事を探し書き写す 【写真2】	・新聞記事を読み、男女問題（男女差別、ジェンダーフリー、皇位継承、性同一生障害、男女共同参画基本計画･･･など）について情報を探させ、書き写させる	・新聞記事の見出しを元に探させる。 ・コラムなどにも注目させる。
	新聞資料の中から「男女問題」を探し、考えを深める。		
	・記事にコメントをつけ、レポートを作成する	・記事の内容についてコメントをつけ、レポートを作る。	・自分の意見をきちんと書くよう指導。
	評価：・新聞資料の中から、性差による社会問題を取り上げた情報を選ぶことができたか。 ・社会における男女問題を理解できたか。		
ま と め 5,6	・ できたレポートを元に、交流会を開き、現在どのような男女問題があるか、それに対してどのような考えを持っているかを発表する。 【資料3】	・レポートの交流会を開く 調べたこと、自分の考えを発表させる。	・新聞を活用すること、それを発表することで、今までよりもさらに深く問題に関わっていく。
	交流会を通して、自分らしく生きることを学ぶ。		

／ 6	新聞を使った授業についてアンケートに記入する。	・新聞を使った授業についてアンケート用紙を配布する。	

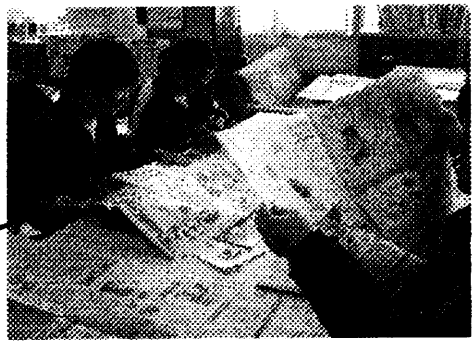
評価：・様々な社会問題を知り、問題に今までより深く関わることができたか。
・男女問題から、自分らしく生きることの大切さを実感できたか。



【写真 1】

1時間目
新聞記事を元に、自分の意見を書く。

2～4時間目
新聞から男女問題に関する記事を探す。
（図書室にて）

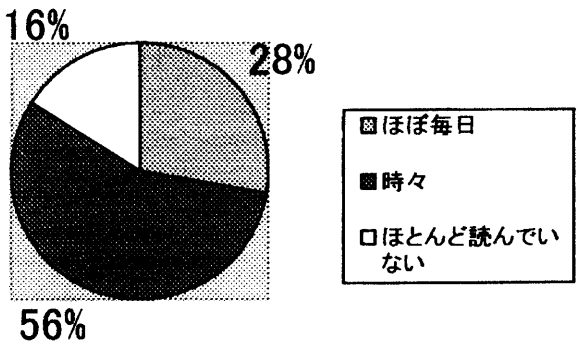


【写真 2】

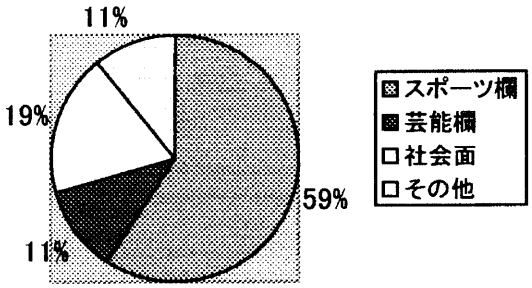
○授業後のアンケート

授業後、新聞を使った授業について、新聞との関わりについてアンケートをとり意識調査を行った。以下がアンケートの結果である。

Q１．今までどの位新聞を読んでいたか。



Q２．新聞はどこを読むか。



Q３．新聞に対するイメージ

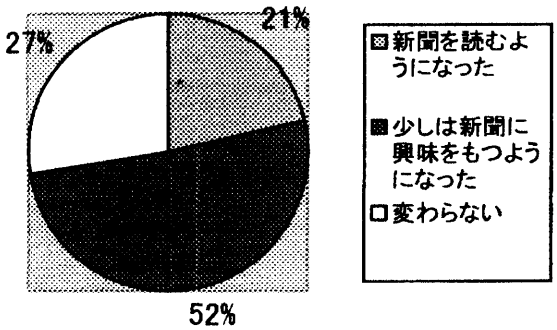
《良い面》

・色々な出来事を伝えてくれるから役に立つ。
・楽しい。カラーは見やすい。
・情報が豊富。
・勉強になる。
・スポーツや芸能欄は楽しい。
・便利。
・身近。
・情報が早い。
・世の中のことがわかる。
・記録に残るので良い。

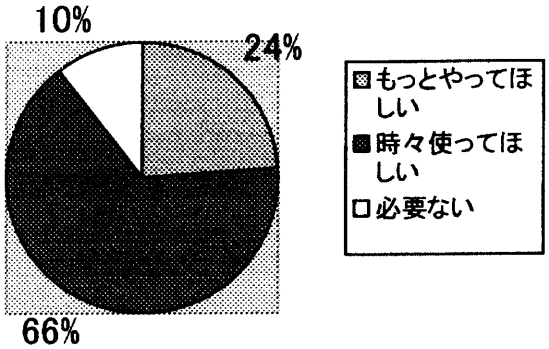
《悪い面》

・勉強になるが字がいっぱいであんまり読む気になれない。
・難しい。(内容・言葉・漢字)
・字が小さく、多いので読みづらい。
・大人が読むもの。
・読むのが面倒くさい。
・わかりづらい。
・記事の読み方がわからない。
・古い。
・堅苦しい、地味。
・つまらない。

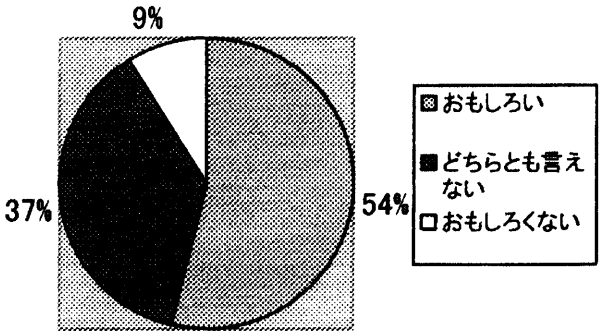
Q４．新聞を活用した授業で新聞に対する意識は変わったか。



Q５．授業で新聞記事を使ったことをどう思うか。



Q６．新聞での調べ学習についてどう思うか。



《結果から》

アンケートの結果、本校では新聞を時々でも読んでいるという生徒が全体のおよそ 80%いることがわかった。日ごろ新聞に触れている生徒が多いといえる。しかし、内容は圧倒的にスポーツ欄の割合が高く、社会面を読んでいる生徒は約３０％だった。また、スポーツ欄の中でも、地元十勝のスポーツの結果を特に気にして見ているようだ。部活に入っている生徒が大半なので、大会などの結果に注目している。しかし、どの記事であれ、新聞を読み情報を得ているという点では評価できる。また、３０％が世の中の流れに興味を持ち、社会面を読んでいるという嬉しい結果だった。

新聞に対するイメージでは、情報源となることから、「勉強になる」「便利」などの意見が多かった。その一方で、やはり字が小さく量が多いため読む気になれないという意見が多数あった。また、現代ではインターネットの利用率が高く、調べ物をするにはインターネット検索の方が気軽で使いやすいという意見も多かった。

今回の新聞を活用した授業に関しては、授業を通し少なからず変化があったという生徒が約７０％に及び、

今後も続けていくことで、より社会に目を向ける姿が期待できそうだ。また、授業に新聞を取り入れたことに対しては、今後も続けてほしいという意見が多く、その理由として、「社会で起こった出来事や問題点などを知ることができるから」というものであった。このことから、中学生であっても、世の中を知りたいという気持ちが十分にあり、その機会を求めているということがわかる。最終的に、今回の新聞を活用した授業では「おもしろい」と答えた生徒が半数以上に上り、新聞を通して社会に触れ、考えを深める良い機会になったのではないだろうか。

【課題】

問題点として残るのは、新聞に対して「難しい」「堅苦しい」などというイメージを持っている生徒に対して、どのようなアプローチをしていくかである。小さな活字を見ただけでもやる気を失ってしまう生徒も少なくない。今回の授業実践の中でも、3 つの記事の中で好きなものを選ばせて感想を書かせた所、「性同一性障害」を選んだ生徒が多かった。これは、「性同一性障害」の記事が一番読みやすく、難しい言葉や漢字が少なかったことによると考えられる。今後、できるだけ読みやすく興味を引くような記事からスタートするなど工夫が必要である。

また、新聞を活用した授業を始めたばかりではあるが、授業後に新聞に対する意識の変化が見られなかったと答えた生徒が、３０％いたことも真摯に受け止め、生徒一人一人の今後につながるような授業展開、まとめを考えていく必要がある。

その他、各紙面による表現の違い、記者の意図などを文面から読み取らせるなど、発展的な授業にも今後取り組んでいきたい。

【２】夏休み・冬休みの課題～新聞スクラップ～

長期休業中の課題として、今年度は２回新聞スクラップに取り組ませた。夏休みの課題では、授業の関係から「環境について」というテーマで記事を集めさせ、必ずコメントを書くように指示を出した。また、レイアウトなどの工夫を促した。しかし、初めてスクラップに挑戦する生徒も多く、単に新聞を切り貼りしているものも多かった。そのため、点検作業をした後、優秀なスクラップ作品をコピーし、授業の中で紹介することにした。見出しの工夫、グラフや挿絵を入れるなど実際に目で確認させることで、どのようにスクラップしていくかがイメージできたようだった。また、コメントについても自分の意見を中心に書くよう再度指導した。その結果、一回目のスクラップではコメントが自分の意見ではなく、要約になっていた生徒も、二回目では、きちんと記事を読み、短くても自分の意見を書けるようになった。

冬休みの宿題では、少しでも多く新聞を目にしてほしいという狙いから、テーマを決めず、自分の興味のある記事を好きなときにスクラップさせた。2回目ということもあり、レベルが上がり内容も濃いものになった。ただ新聞を切り貼りするだけではなく、様々な工夫を凝らしたもの、自分なりの意見をきちんと書いてあるものが多く見られた。

しかし、毎日のように新聞に目を通しスクラップを実践したのは、全体の１０％ほどで、まだまだ新聞に対する意識は薄いようだ。続けていくことで、新聞を読むということを習慣にしてもらいたい。

３、おわりに

ＮＩＥ実践校になり４ヶ月間の取り組みであったが、生徒たちにとっては、様々な新聞を目にすることができた。新聞を目にすることで、少しずつではあるが世の中に目を向けはじめ、社会の問題や流れに敏感になってきた。また、活字を読むことで、様々な漢字に触れ、語彙力を高める効果も期待できる。今後もこのような取り組みを続けていきたい。